

6. 学校規模ときまりの有無



さて以上の点を、学校規模との関連でみてみよう。すでに図7で、「文章化したきまり」の有無と学校規模との間には多少の関連がみられたが、ここで改めてそれぞれの項目ごとにみてみよう。

図24は、スクールサイズによって、きまりの有無に差があるものを、差の大きいほうから29項目選んで示してある。

図から、大規模校ほどきまりが多くなっていることがわかる。大規模校のほうが高い数値を示すものが、「胸に名札をつける」から「体育着は週末に家に持ち帰り、洗たくする」まで18項目にわたる。それに比べ、小規模校が高い数値を示すのは、「職員室に入る時、おじぎをして入る」と「トイレ用のはきもにはきかえる」の2項目だけである。

図7でも見いだされた傾向だが、集団のサ

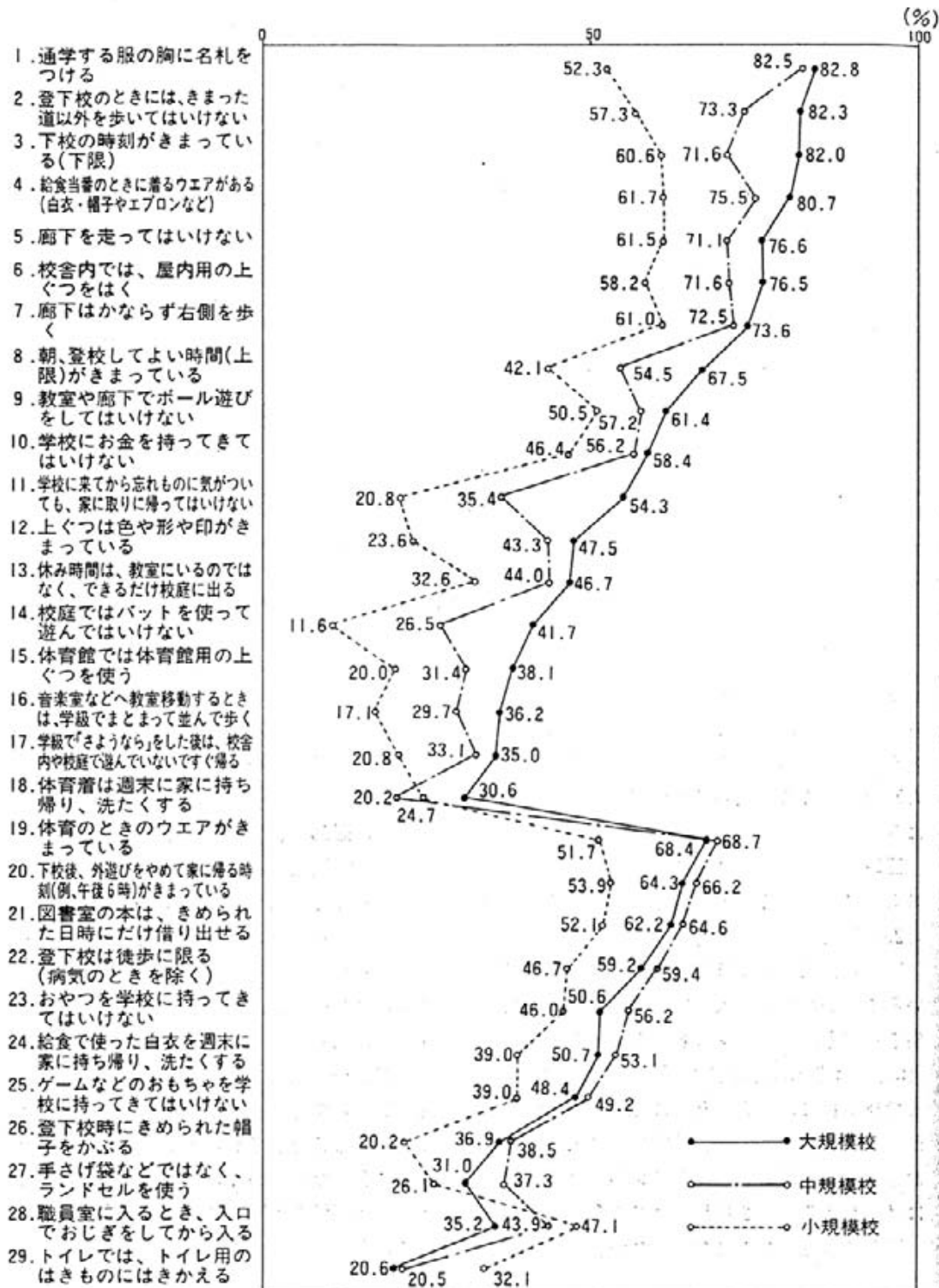
イズが大きくなるほど、管理化が進む傾向が、ここでも表れている。となると、改めて「学校の適正規模の問題」が問われることになるうか。

つぎの図25は、学校規模ときまりの重要性の判断との関連である。

図をみると、大規模校では、「忘れものに気がついても、家に取りに帰ってはいけない」、「胸に名札をつける」、「校庭でバットを使っ
てはいけない」と、安全面や管理的な面でのきまりの色彩が強そうである。

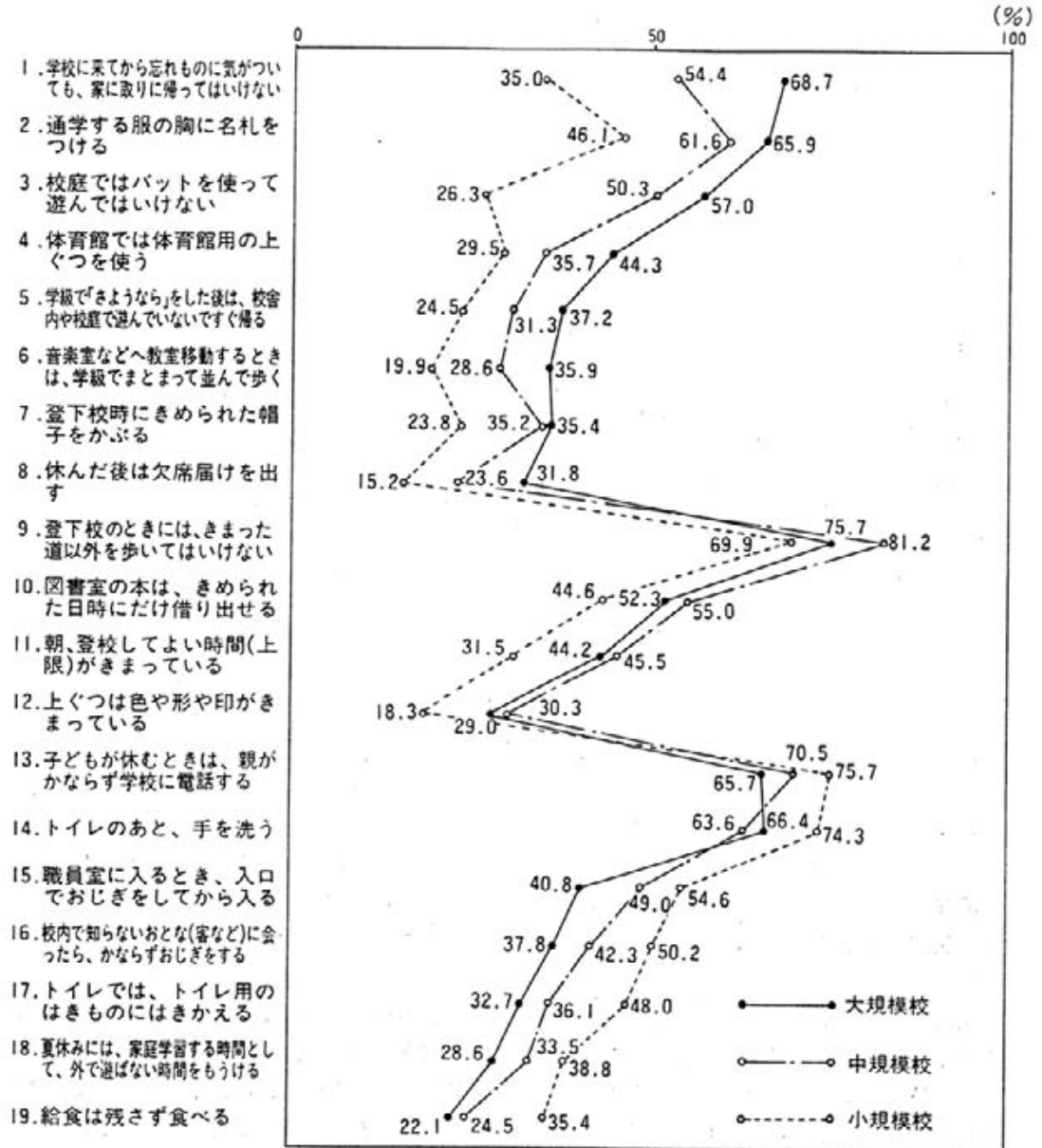
他方、小規模校では、「子どもが休むときは、親がかならず電話をする」「職員室に入るときには、おじぎをしてから入る」「校内でお客さんに会ったら、かならずおじぎをする」などの人間関係をめぐってのきまりが大事にされている。

図24・学校のきまり×学校規模



数字は「文章化したきまりがある」割合

図25・きまりの重要さ×学校規模



数字は「とても重要」な割合

7. きまりは守られているか



以上のようにたくさんあるきまり、しかも学校側がそのほとんどを重要と考えているらしいきまりは、当の子どもたちの間で、どのくらいよく守られているだろうか。

図26ではきまりの実行率の高い上位16項目を、図27では逆に、下位15項目をとりあげてみた。

図26からわかるように、「ほぼ全員が守っている」きまりは、実行率の高い順に、「腕時計を持ってこない」96%、「屋上に上ってはいけない」95%、「おやつを持ってこない」95%、「校舎内で屋内用の上ぐつをはく」93%で、9割を超え、その後の項目も8割、7割と、子どもたちが意外によくきまりを守っている姿が見いだされる。

また図27で下位の15項目についてみると、子どもたちが最も守れないきまりの「休み時間はできるだけ校庭に出る」でさえ、「ほぼ全員が守っている・わりと守っている」を合わせると78%にも達する。この資料でみる限

り、日本の子どもたちは、けっこう規則に従順な、扱いやすい子どもたちではないかという気がする。しかし角度を変えれば、これは、「管理されることに慣れた子どもたち」と言うこともできる。喜んでいいのだろうか。

ここでもう一度、学校規模ときまりの守られ方を検討してみることにしよう。

図28からわかるように、きまりを守っている割合が高いのは、大規模校では27項目中6項目、小規模校が20項目と、小規模校のほうがきまりを守っている割合が高いと言える。

中規模校は、ほとんど小規模校と大規模校の中間に位置し、学校規模が拡大すればするほど、守られないきまりが多くなるようである。

子どもの数が多くなるほど教師の目が届かなくなり、子どもたちも羽を伸ばすようになるのだろうか。したがって、すでに図24図25でみてきたように、大規模校では、守られにくいからこそ逆にきまりを重要と考え、きま

りを多くする傾向が出てくるのだろう。つまり
りいたちごっこなのである。この点からも、

すでに指摘してきたような、学校の適正規模
の問題が、改めて問われることになるだろう。

図26・きまりは守られているか (1)

(よく守られているもの)

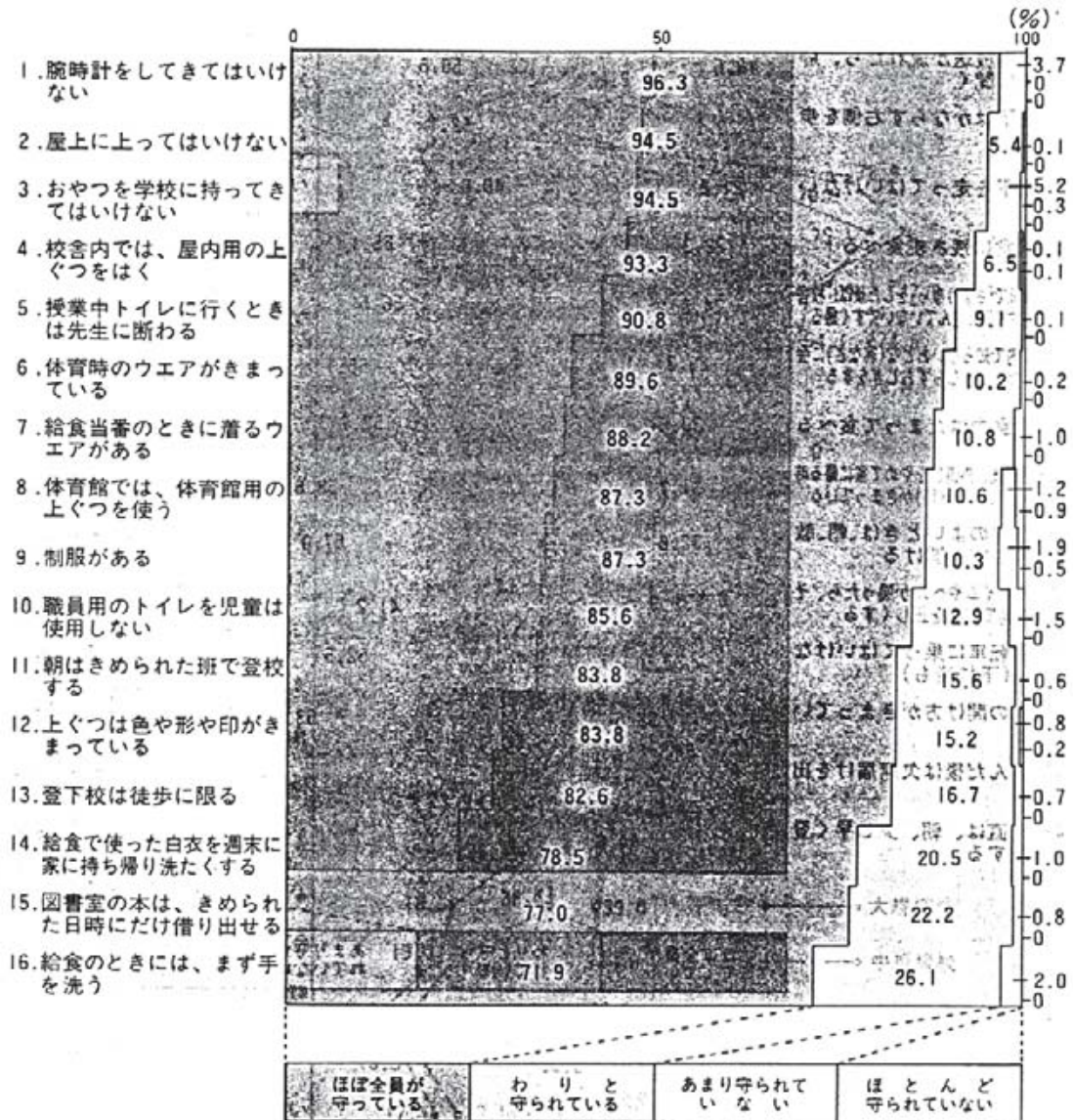


図27・きまりは守られているか (2)

(守られていないもの)

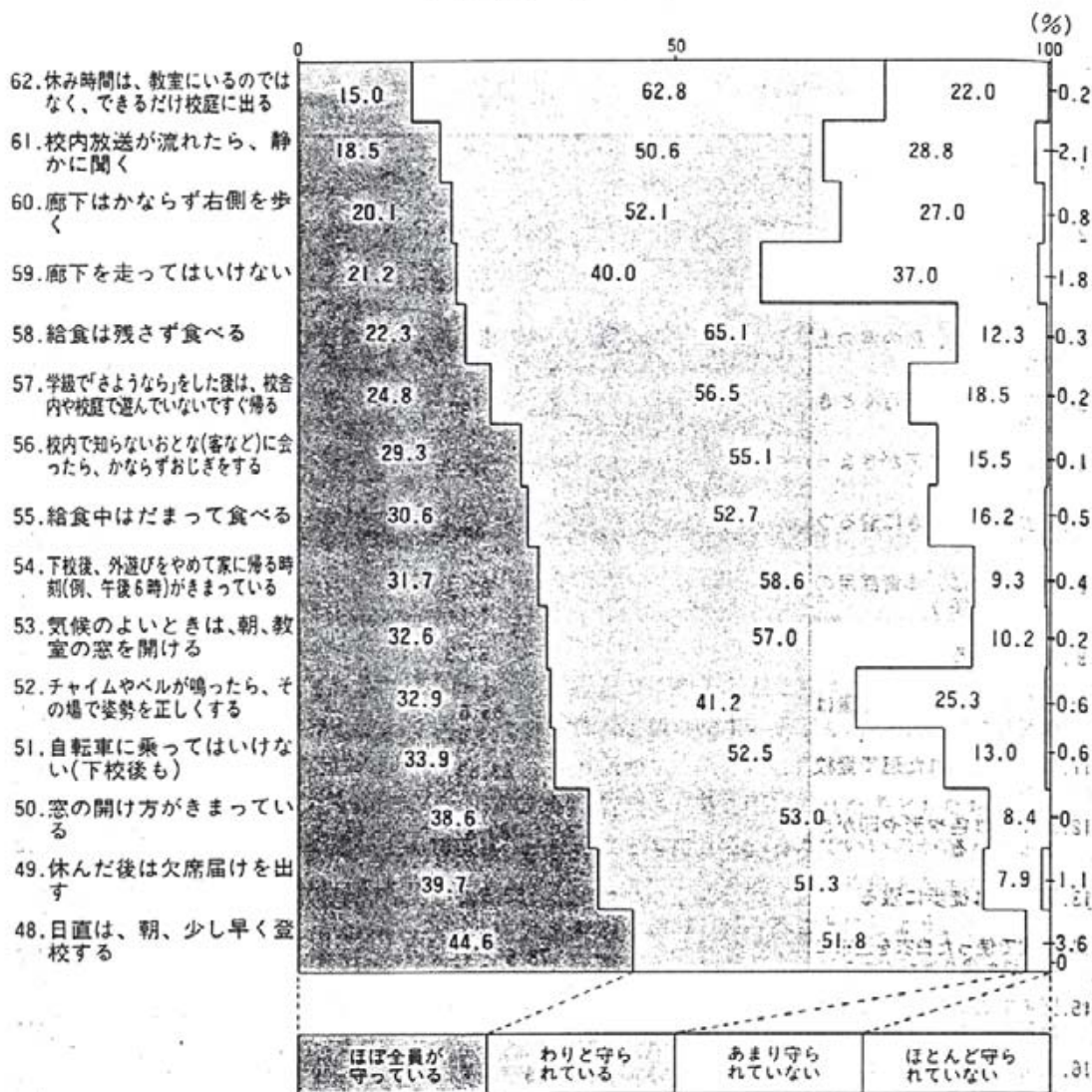
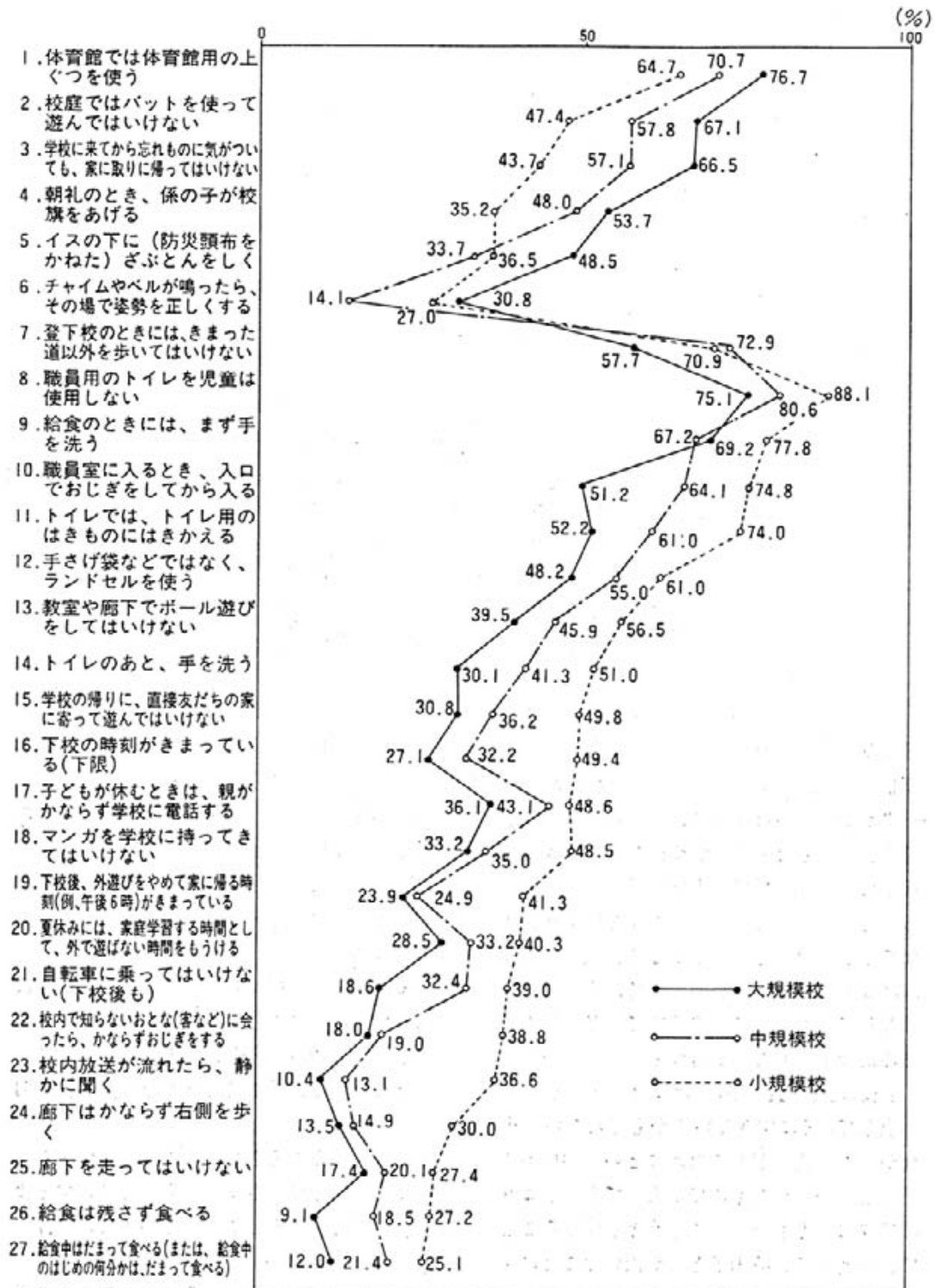


図28・きまりの実行* ×スクールサイズ



数字は「ほぼ全員が守っている」割合

* このデータのみ、きまりの有無に関りなく実行度をみた数値を使用。

8. きまりをどう考えていくか



今日、学校での教育目標には、「自主性を育てる」「個性をのばす」などの内容が、しばしばうたわれている。しかしわれわれのデータが示していたように、そのいっぽうで学校は、子どもたちの服装や持ちものをはじめ、登下校の仕方、果ては家庭生活や校外生活のあり方にまで、念入りなきまりをつくり、それで子どもたちをしぼることで、教育の実をあげようとしているかのようである。これで果たして、主体的で、自律的で、考え深く、個性的な子どもたちが育つものだろうか。

学校は、ただ良い子のステレオタイプをつくり出しているにすぎないのかもしれない。それが、たとえ子どものためにという学校側の「善意」から出たものではあっても、きまりのワクに子どもをはめこもうとしすぎることで、かえって、将来子どもが困難なことにぶつかった時、自力で切り抜けていく力を奪い、適応力の乏しい人間をつくり出してしまっているようにも思う。

そこで、こうした「きまり」による教育のあり方を学校はどう考え、どう改善しているのかをたずねることで、今後、学校がたどろうとしている方向を探ってみることが必要だろう。

図29は、自分の学校にある「きまり」を、学校としてどう考えているかについてたずねた結果である。

まず、一番支持率の高いのは、「もっと教師間できまりについての共通理解を深め、学校全体で足並みをそろえて児童を指導していくとよい」で、「とてもそう思う」学校が64%。

逆に、「今あるきまりが本当に必要かどうかよく検討して、きまりをもっと減らすとよい」に「とてもそう思う」と答えたのは17%と、もっとも低い。

また、「家庭でしつけるはずのことまで学校にまかされているため、きまりが不必要に多くなっているようだ」という意見の支持率

も39%と、家庭と学校の役割を明確にしなければという意識も、意外に薄いようである。

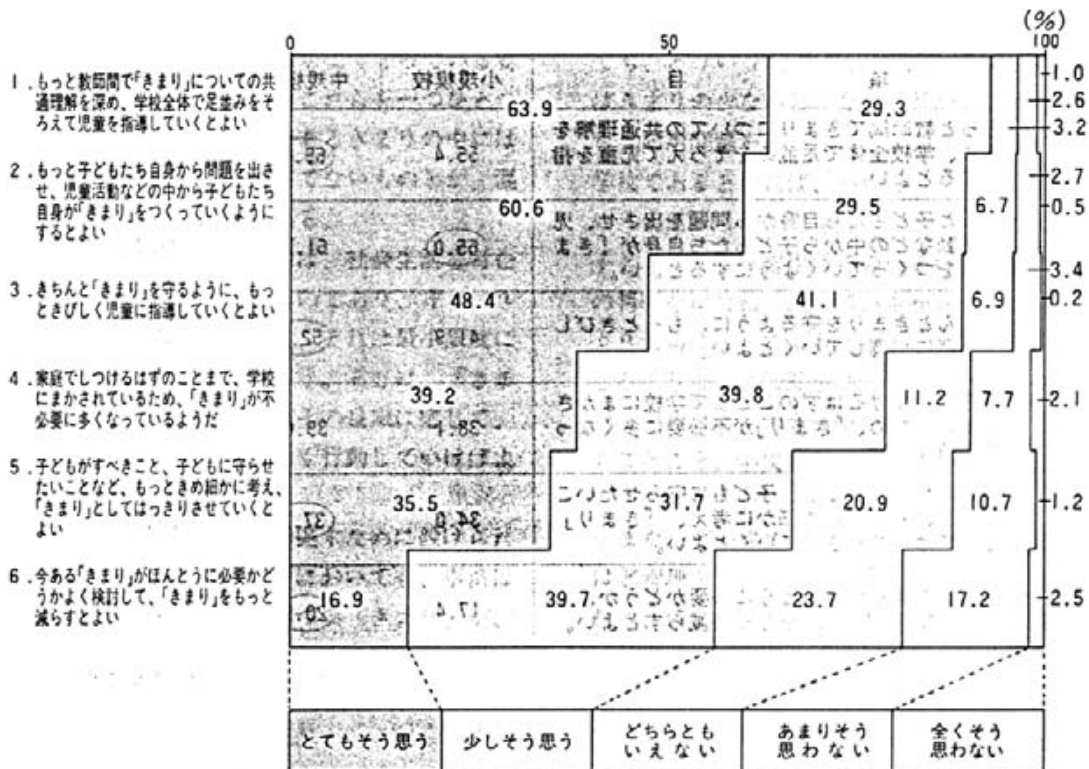
となると、学校としては、今後きまりを増やすことはあっても、減らすことはまずなさそうである。そして、共通理解という名ののもとに、きまりの徹底に力を注いでゆきそうな気配がある。

だが、いっぽうで、「もっと子どもたち自身から問題を出させ、児童活動などの中から

子どもたち自身がきまりをつくっていくようにするとよい」に「とてもそう思う」とこたえる学校も61%ほど見いだされる。

これは、今のきまりが教師サイドの都合でつくられているのではないか、一方的な押しつけで、子どもたちの自由な発想の芽を摘んでしまっているのではないか、という危惧をまた、学校自身がもちはじめていることを示すものではなからうか。さらに、こうした動

図29・きまりについての意見



きがどの層から出てきているのかをみるために、学校規模との関係を見たのが、表3である。

表からわかるように、「もっと教師間できまりについての共通理解をし、きちんときまりを守るように厳しく児童に指導していくとよい」という声強いのが、中・大規模校。

逆に小規模校ほど、「もっと子どもたち自身から問題を出させ、子どもたち自身がきま

りをつくっていくようにするとよい」とこたえ、管理的なきまりから自治的なきまりに移行させてゆこうという姿勢が感じられる。

これら6項目について、スクールサイズの違いだけでなく、地域での違いをも追ってみたが、地域によって多少の差はみられるが、特にこの地区では、というほどのはっきりした違いは、各項目ともみられなかった。

表3・きまりについての意見×学校規模

(%)

項 目	小規模校	中規模校	大規模校
もっと教師間できまりについての共通理解を深め、学校全体で足並みをそろえて児童を指導するとよい。	55.4	69.0	68.0
もっと子どもたち自身から問題を出させ、児童活動などの中から子どもたち自身が「きまり」をつくっていくようにするとよい。	65.0	61.7	56.0
きちんときまりを守るように、もっときびしく児童に指導していくとよい。	41.9	52.8	49.3
家庭でしつけるはずのことまで学校にまかされているため、「きまり」が不必要に多くなっているようだ。	38.1	39.0	38.2
子どもがすべきこと、子どもに守らせたいことなど、もっときめ細かに考え、「きまり」としてはっきりさせていくとよい。	34.0	37.2	33.5
今あるきまりがほんとうに必要なかどうかよく検討して、「きまり」をもっと減らすとよい。	17.4	20.9	14.7

数字は「とてもそう思う」割合

まとめに代えて

以上のデータからわれわれは、日本の小学校の中に、予想外に多くのきまりがあり、それをけっこう子どもたちがよく守っている姿を見いだした。しかし、これらを一つひとつつぶさにみていくと、今あるきまりの中には本当に必要なものとそうでないものが、混在しているように思われる。

「きまり」というものは、社会生活を営む上でどうしても必要なものであり、守るべきものではあるが、ただし、それは最小限度にとどめるべきものであろう。あとは、「きまり」はなくとも、各人がその良識に応じて、その場その場にふさわしく行動していけばよい。

人間の基礎的社会化を促すために設けられている「学校」という場においても、事情は同じであろう。一つひとつの「きまり」が、自分たちの社会生活（学校生活）にとって、ほんとうに必要なかどうかを考えようとする前に、まずプリントが渡され、「これらに忠実に従っていけば、みんなとうまくやっています」と、一方的に教え込むのが、果たして

正しい教育の仕方なのか。お互いがうまく暮らしていくためには、たとえきまりがなくても、どういう行動の仕方が必要か。いわばきまりの少ないおとなの「社会」に出てから、応用問題を解いていく能力を育てるのが学校であるとすれば、いつも、「きまり」という生活の手引き書を持たせるのではなく、子ども自身に日常生活でのいろいろな場面での判断をゆだね、試行錯誤させることが、何より大切になってくるだろう。すなわち、むしろ「きまり」は最小にして、社会生活を円滑に営むためのマナーや心構えを指導していくことこそ、学校がしなければならないことではなかろうか。

また、データでみてきたように、大規模校ほど管理主義が強まるのを避けられないとすれば、何よりも子どもの個性や主体性、積極性を育てる場でなければならない学校においては、適切なスクールサイズを保つことが、何より大切な課題になってくるのではなかろうか。

結果を解釈しようという意欲が薄れてくる。
 それでは、単純な手集計では、どうして分析の深まりを期待できないのか。「学業不振」に具体例をとって考えてみよう。

中学生約2千名を対象として調査を実施したところ、学業成績の自己評価について、以下のような数値が得られた。

トップ	4%	上のほう	7%
やや上	13%	中くらい	34%
やや下	20%	下のほう	13%
ずっと下	9%		

学業成績が下位だと思っている生徒が全体の2割を占める。このこと自身も示唆に富む数字だが、これだけでは、学業成績の良し悪しが生徒たちの心にどのような重みをもつかが明らかでない。

かりに学業不振の生徒でも、現在の自分についてそれなりの自信をもち、未来に明るさを予感しているのであるなら、学業不振は、文字どおり、勉強が苦手というだけの問題ですむ。しかし、学業成績をその他の項目とかけ合わせると、以下のような結果が得られる。

	上位群	下位群
①学校へ行きたくない	18%	42%
②自分なんか、生まれな ければよかった	16%	32%

③小さなころのほうが幸せだった	35%	43%
④友だちの間で人気がある	22%	7%
⑤スタイルに自信がある	14%	7%
(以上、①～⑤は「とても+かなり」そう思う割合)		
⑥社会的に重要な仕事をする人になれない	32%	60%
⑦社会的に尊敬される人になれない	37%	65%
⑧みんなから好かれる人になれない	7%	19%
⑨よい父(母)になれない	8%	13%
(以上、⑥～⑨は「とても+かなり」なれないと思う割合)		

ここでは、学業不振の成立する背景などについて論じるつもりはないが、①～⑨の数値を目にすると、学業成績の良し悪しが、生徒たちの心情に深いかわりをもつのがおのずと明らかになる。

こう考えてくると、学業成績をとらえるにあたって、単純集計だけでは不十分で、項目間の関係を調べる、つまり、クロス集計の必要性が理解できよう。しかし、単純集計だけでもたいへんなのに、クロス集計を手で行お



うとするのは、労力的に考えて不可能に近い。そこで、機械集計——コンピュータとは限らない——の必要性が生まれる。

コーディングとはデジタル化

しかし、そうした集計上の技法は次号にゆずり、今回は、集計に入る前の準備、つまりコーディングの仕方にふれておこう。

コーディングとは、調査票を記号化する——多くの場合、数字に置きかえる——作業である。

その前に、大きな文房具屋へ行き、データ・シート (data sheet) を求めてほしい。1 ページが20行前後、1行に80のマスのある、横に長い用紙の綴りである。用途はちがうが、プログラムシート (program sheet) を利用してもよいし、自分で1行に80のマス目のある用紙をつくるのも可能だ。

表1 コード例

- ① あなたはカレーライスが好きですか。

とても 好き	やや 好き	やや きらい	とても きらい	わから ない
1	2	3	4	5

- ② あなたはマンガが好きですか。

ア. とても好き……………1
イ. やや好き……………2
ウ. ややきらい……………3
エ. とてもきらい…………4

- ③ あなたは本をなん冊持っていますか。

冊 (そのまま
コードする)

- ④ あなたはどんな仕事にしたいですか。

準備ができたところで、コーディングに入ろう。すでにふれたように、コーディングとは、調査票の項目を数字に置きかえる作業である。回答の形式が表1の①または②の場合、これらは回答をそのまま数字に置きかえられるので、自動的にコードできる。また、③のコード化も理解できよう。このように、機械的に数字に置きかえるのを「自動コード」とよぶ。換言するなら、設問のなかで自動コードのできる項目が多いほど、コーディング作業が容易になる。したがって、調査票づくりにあたって、コードのしやすさを考え、②の例などは、アを1、イを2としておくほうが望ましい。

しかし、項目によっては、④のように、回答者に記入を求める形——オープン・アンサー (open answer) という——もありうる。こうしたタイプの項目としては、「好きな番組をひとつあげてください」「好きな男性タレント名を書いてください」「今まで読んだ本のなかで、いちばん良いと思った本の書名を書いてください」などが考えられる。

もちろん、④で例示した「つきたい仕事」については、あらかじめプリテストを行って、子どもたちのつきたい仕事を調べ、それらを具体的にあげて、

「つぎの仕事のなかで、将来なりたいと思うものを、1つだけ選んでください。

1 まんが家 2 プロスポーツの選手
3 小学校の先生 4 花屋さん
…………… 9 その他」

とたずねれば、自動コード化も可能になる。そして、一般的には、集計のしやすさを考えて回答の仕方を①や②のようにきめておくのが望ましいが、回答者の気持ちをトータルとして引き出すのをねらいとするオープン・アンサーの長所も捨てがたい。しかし、長所におぼれると、集計の段階で手こずる結果を招きやすい。

コード化で注意する項目

こうした形でコード化を進めていくが、親などを対象とした調査を処理するとき、数量化するのにこずる、つまり、コードしにくい項目があるので、それを紹介しておこう。

<1. 職業>

プライバシーに関連する項目なので、慎重に扱う必要があるが、

「よろしかったら、どんなお仕事についておられるか、くわしくお教えてください。例、凸凹産業総務部人事係長 」のような形が考えられる。この場合、コーディングにあたっては、オープン・アンサーと同じように、100、あるいは200くらいのサンプルをぬきとって、単純に集計し、カテゴリーをつくる必要がある。

- | | |
|-----------|---------|
| 1 専門・管理職 | 2 セミ専門職 |
| 3 ホワイトカラー | 4 販売・生産 |
| 5 自営 | 6 その他 |

がコード例だが、この場合でも、警官、僧侶、ピアノの先生、保母、自衛官などをどのカテゴリーに入れるのが問題となる。

一般的には、多少の無理があっても、どこかのカテゴリーに入れ、「その他」を少なくするのが望ましい。

<2. 学歴>

調査対象によっては、旧制を考えておく必要がある。また、中学卒、高校卒、短大、専門学校卒、大学卒が一般的なカテゴリーだが、高学歴者が多い場合は、大学卒を、なんらかの基準で2つに分けることも考えておこう。

<3. 年齢>

小・中学生の親を対象とした調査だと、30代から40代に年齢層が集中し、なかでもピークの年齢層がかたまっている可能性が強い。したがって、30代前半、後半のようなラフなカテゴリーに適さないから注意してほしい。

<4. 居住地域>

住宅地、商業地、団地、農漁村などのカテ



グリーが可能だが、こうしたタイプ分けも、地域の実情に対応させることが望ましい。

<5. 収入>

1.~4.以上にプライバシーに関連するから、欠くべからざる場合を除くと、別の形で質問すべきであろう。しかし、設問を行うときは「手取り（税抜き、ボーナスは月平均にならず）月収」のように、明確な基準を示す必要がある。なお、この場合も、ぬきとりの形でカテゴリーをつくり、その後、コーディングをはじめたい。

コーディングの具体例

このような形で、調査票をコード化する目安がついたら、コード化するためのガイドとも言うべきコーディング・ガイドをつくっておこう。具体例は表2のとおりだが、調査票を回収できたら、こうしたガイドに基づいて、シートへ書きこみをはじめよう。

具体的には表3に目をとめてほしい。まず、サンプルナンバーをきめよう。どれでもよいから、一番上にある調査票を0001とし、以下、0002、0003……と、サンプルナンバー（サンプルが1000未満なら、0001の形でよい）を打

つ。

データ処理を行っているとき、①パンチカードが破れる、②パンチされている内容に疑問がある、③カードを紛失する、などの理由

表2 コーディングガイド例

① 注意事項

- 1 無記入のものは、0扱いとする。
- 2 自動コードでないのは、カラム2、3、26である。

② カラムの指定

カラム

1 }
2 } サンプルナンバー
3 }
4 }

5-学校 A校=1 B校=2
C校=3 D校=4

6-学年 4年生=4 5年生=5
6年生=6

7-性別 男子=1 女子=2

8-質問1 1=1 2=2 3=3
4=4 5=5

(以下略)

から、調査票へ戻ってチェックする場合がある。したがって、サンプルナンバーを打つ習慣をつけておきたい。

サンプルナンバーに続いて、5列目(カラム5)から、データが入ってくる。例1の場合は、カラム5=学校、カラム6=学年、カラム7=性別と、基本的な属性が続き、以下、カラム8=質問1、カラム9=質問2……の順序に、データを記入していく。

なお、カラムの数を計算するとき、「あなたの持っているものに、○をつけてください。○はひとつもなくとも、たくさんあってもかまいません。

- 1 腕時計 2 カメラ 3 ラジカセ
4 エレクトーン 5 電卓 6 本棚

だと、①マルの数がいくつだけを問題にするなら1カラム、②項目それぞれに○がついているのかを問題にするなら、1~6の6カラムになる。また、「あなたの家から学校まで、何分かかりますか」などの場合は、10分以上のこたえが予想されるから、2カラムを使い、実数値を入れておこう。もちろん、1 0~5分、2 6~10分、3 11~15分、4 16分以上、のようにカテゴリズすれば、1カラム内での処理が可能になる。

多くの調査では、カラムの数が80以内でおさまると思われる。次号でふれるように、カラムの数80が、パンチ・カード1枚分の長さになる。したがって、カラム数が80以内の調査なら、データ・シート(あるいはコーディング・シート)1行分が、パンチ・カード1枚に収納される。

しかし、カラム数が80を超える場合は、1行目、2行目を区別するために、表3の例2のように、カラム1をカード・ナンバーとして利用するのが通例である。

なお、コーディングは単純作業なので、どうしてもミスしやすい。そこで、調査票の区切りのよいところでカラムをとめ、いくつか

表3 コーディング例

例1

カラム

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	0	0	1	1	4	1	5	2	1
0	0	0	2	1	4	2	1	3	3

サンプル | 学 | 学 | 性 | | | |
ナンバー | 校 | 年 | 別 | 問 | 問 | 問
1 | 2 | 3

例2

カラム

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0	0	0	1	2	6	1		
2	0	0	0	1	2	6	2		

カ | サ | | | | | | | |
ナ | ン | 質 | 質 | 質 | プ |
ド | ン | 問 | 問 | 問 | ラ |
ン | ン | 1 | 2 | 3 | ン |
バ | ナ | 質 | 質 | 質 | ク
ー | ン | 16 | 17 | 18



blankをつくったあと、また、コードを続ける形をとる場合もある。例2の場合のコラム9、10は、そうした事例である。

なお、サンプルが2000を超える大規模調査の場合、コーディングに手間とることが多いので、コーディングを省略し、調査票を見ながら直接パンチを打つ「ダイレクト・パンチ」の

方法も考えられる。しかし、こうした場合には、ダイレクト・パンチをするために、回答選択をあらかじめすべて数字化しておくなどの配慮が必要となるので、原則としては、コーディングをし、その後、パンチ（あるいはマーク）をするのが望ましいと言えよう。

〈資料1〉 学校の教育目標の例

資料1

学校の教育目標の例 ()内は県名・生徒数(約)・創立年度・目標ができた年度の順

(I)子ども向けに表現されているもの

1. ①心豊かな子②よく考える子③自分から進んでやりぬく子④責任を重んじ仲よく協力する子⑤健康で明るい子
(京都・990人・明治5年・昭和27年)
2. ①明るく礼儀正しい子②自主的に考え学ぶ子③積極的に取り組み、やりぬく子④心豊かな思いやりのある子⑤たくましく心身をきたえる子
(群馬・1,140人・昭和22年・昭和30年)
3. みんなでつくる楽しい学校
(大阪・1,100人・昭和34年・昭和35年)
4. 互いに励まし助け合える子ども
(大阪・1,070人・明治18年・昭和40年)
5. 思いやりのある子、よく考える子、進んでやりぬく子、しょうぶな子
(石川・580人・明治5年・昭和40年)
6. 全力を出してぶつかる須律*の子
(静岡・1,050人・明治5年・昭和40年)
7. 素直で心美しい子、しょうぶでたくましい子、すすんで行動する子
(神奈川・900人・昭和32年・昭和40年)
8. ①思いやりのある子②よく働く子③よく考える子④元気でしょうぶな子
(埼玉・724人・昭和43年・昭和43年)
9. いつも明るく思いやりのある子、進んで学び深く考える子、せいっぱいがんばるたくましい子
(福岡・320人・明治5年・昭和45年)
10. すなおで明るく、たくましく、よく考えてがんばりぬく子ども
(鹿児島・250人・明治3年・昭和45年)
11. めあてをもってやりぬく子〔考えつくり出す、仲よく助け合う、すすんで行う、からだをきたえる〕
(岐阜・1,300人・不明・昭和50年)
12. みんな仲よく助け合う〔自分で考え割り出す子、相手の身になって考えることのできる子、進んではたらきやり抜く子、きまりを守り責任を果たす子、体を鍛えがんばる子〕
(徳島・980人・明治5年・昭和50年)
13. 仲よく元気でがんばる子ども
(滋賀・1,260人・明治8年・昭和50年)
14. 元気に育つ、正しく学ぶ、仲よく励む
(兵庫・350人・昭和8年・昭和50年)
15. すすんで勉強する子ども、力を合わせてはたらく子ども、明るくやさしい子ども
(宮城・984人・明治6年・昭和50年)
16. ①よく学び、能力を最大限にのばす子ども②礼儀正しく心のゆたかな子ども③最後までやりぬく強い心の子ども④しょうぶで明るくたくましい子ども
(青森・20人・昭和38年・昭和51年)
17. たくましい子、よく考える子、努力し実行する子、公共心の強い子、骨身をおしやすく働く子
(高知・170人・明治10年・昭和52年)
18. 深く考えすすんで学習する子、明るく心豊かな子、おぼろしくたくましい子
(沖縄・900人・明治15年・昭和53年)
19. いのち・リズム・ホワイト・おぼろを大切にする子ども (入舟)*
(新潟・700人・大正7年・昭和52年)
20. 正しいことに勇気ある行動をする子ども①ことばの豊かな子ども②強い体の子ども③みんなと働く子ども
(北海道・480人・不明・昭和54年)
21. ①よく考える子ども②すすんで実行する子ども③仲よくする子ども④心豊かな子ども⑤元気な子ども
(東京・700人・明治25年・昭和54年)
22. ①自ら学び、よく考え、最後までやりぬく子ども②健康で礼儀正しくきまりよい子ども③みんな仲よく互いにはげまし合う子ども④創造力豊かで感謝の心を忘れない子ども⑤勤労を喜び精いっぱい努力する子ども
(茨城・770人・不明・昭和55年)
23. 考える子……深く考えすすんで学習する子ども
親切な子……心豊かで、思いやりのある子ども
元気な子……しょうぶでがんばりぬく子ども
(愛知・310人・明治6年・昭和56年)
24. よく考え、思いやりのあるたくましい子
(新潟・1,060人・明治5年・昭和56年)
25. ①よく見、よく考え、くふうする子(よく考える子)②思いやりがあってきまりを守る子(思いやりのある子)③しょうぶなからだでおぼろ強い子(おぼろ強い子)
(岩手・640人・昭和57年・昭和57年)
26. しょうぶな子ども、心の美しい子ども、考える子ども、おぼろ強い子ども
(山形・776人・明治6年・昭和57年)
27. ①健康でがんばりぬく子ども②よく考えくふうする子ども③思いやりの心をもった子ども
(千葉・250人・明治7年・昭和58年)

*地名、校名か

*地名、校名か

(II)教師に向けての教育目標

1. たくましいからだに豊かな心、すぐれた知性を身につけて、新しい時代に生きる自主的・創造的で実践力に富む児童を育成する。
(富崎・830人・明治2年・昭和40年)
2. 人格の完成を旨とし、民主的で平和な社会や国家をつくることのできる健康で心ゆたかな子どもを育成する。
(和歌山・400人・不明・昭和42年)
3. 高い知性と豊かな情操に根ざし、たくましい心と身体を持った、節度と実践力のある意欲的な子どもを育てる。
(石川・800人・昭和34年・昭和44年)
4. ①すぐれた知識をそなえた児童②人間性豊かな児童③たくましい体をもった児童
(佐賀・290人・明治5年・昭和45年)
5. 進んで勉強し、礼儀正しく、思いやりとやる気のある、心身共にたくましい河原の子どもを育成する。
(熊本・150人・明治23年・昭和50年)
6. 健康で明朗な子どもの育成、自主的精神に満ち行動力のある子どもの育成、勤労と責任を重んずる子どもの育成、情操豊かで合理的・科学的・実践力のある子どもの育成
(山梨・460人・明治5年・昭和50年)
7. 真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康で、創造性と情緒豊かな国民の育成を期し、その基礎を培う。
(神奈川・1,250人・昭和50年・昭和50年)
8. ①過疎化現象の苦しい、へき地の子どもたちの実態の上に立って、創造的な豊かな心と体験を作り出す教育を推進する。②自ら学習する自主自立と協調の精神に基づく教育活動を、学習のあらゆる場を通して追求する。③教師と子ども、子ども相互の間に暖かい人間味の通い合う人間性豊かな教育を推進する。
(大分・30人・明治8年・昭和50年)
9. 一人ひとりの子どもの能力を伸ばし、おぼろ強い意志と実践力をもつ子どもを育てる。協調性豊かな子どもを育てる。積極的に体をきたえ、勤労を尊び、社会奉仕の精神に富む山口小の子どもを育てる。
(長崎・48人・明治7年・昭和52年)
10. 心身共に健康で、豊かな人間味と確かな学力(実践力)を身につけた子どもの育成をめざす。
(富山・580人・明治45年・昭和53年)
11. 知性・情操・意志・体力の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成。
(広島・110人・明治3年・昭和55年)
12. 健康で実践力のある、人間性豊かな子どもを育てる。
(三重・200人・明治25年・昭和55年)
13. 生きてはたらく豊かな人間性の育成
(秋田・1,440人・明治7年・昭和56年)
14. 教育は人格の完成を旨とし、郷土及び国家・社会の発展に寄与できる国民の育成を期して行われなければならない。そのためには、一人ひとりの個性・能力を最高に引き出し、その可能性の追求につとめるとともに、確かな学習能力とたくましい生活の向上をはかり、心身ともに健康で調和のとれた人間性を培う。
(香川・610人・明治25年・昭和56年)
15. 本校では、学校教育の全領域にわたり、知・徳・体の調和のとれた全人的な人間形成をめざして、心身共に健康で豊かな個性とたくましい創造力をもった、うらおいのある子どもの育成に努力する。特に基本的な生活習慣と行動の節度を身につけさせ、人権を尊重する子どもの育成に努める。
(岡山・110人・明治6年・昭和57年)
16. ①最後までがんばりぬく子どもを育てる。②創造力に富む子どもを育てる。③感謝の心に満ちた子どもを育てる。④奉仕の心を持つ子どもを育てる。
(愛媛・190人・明治8年・昭和57年)
17. ①知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育てる。②基本的人権を尊重し、民主的にかつ社会に貢献できる自主的・自律的・創造的能力に富んだたくましい人間を育てる。
(徳島・150人・不明・昭和57年)

〈資料3～8〉文章化されたきまりの具体例

資料3～8

文章化されたきまりの具体例

資料3

関東・B小学校

「生活信条」

1. 交通規則を守る
2. 学校でしまった通学路を守る
3. 遅刻をしない
4. 気持ちのよいあいさつと返事をする
5. 胸にきちんと名札をつける
6. 廊下は静かに右側を歩く
7. 三角きんをかぶってそうじをする
8. 休み時間は外で元気よく遊ぶ
9. すすんで勉強や係の仕事をする
10. お互いに助けあう
11. 忘れものをしない
12. 学用品やものを大切に使う
13. 学校を休まないでがんばる
14. おうちの手伝いをすすんでする
15. 下校時刻、帰宅時刻を守る

(創立・明治7年 きまりの制定・昭和54年 学校要覧・親、教師、教室に)

資料4

関東・C小学校

1. 廊下は静かに
 2. 休み時間は外へ出て遊ぶ
 3. 中庭で遊ばない
 4. 特別教室へ勝手に入らない
 5. 空き部屋で遊ばない
 6. ゴミを散らさない
 7. 校庭で自転車に乗らない
 8. 名札をつける
 9. 下校時刻を守る
- (創立・昭和53年 きまりの制定・同53年 教室に)

資料5

東北・D小学校

1. ちいさな勇気で明るい生活
 2. 使った時よりきれいな後始末
 3. っぱなしはやりません
- (創立・昭和52年 きまりの制定・昭和58年 学校要覧・親、教師、教室に)

資料6

中国・E小学校

「はさみ運動」

1. 走らない
 2. さわがない
 3. 右側を
- (創立・昭和37年 きまりの制定・昭和44年 学校要覧・教室に)

資料7

北海道・F小学校

1. わばり強くたくましい子
 2. 責任をもち、よく働く子
 3. 明るく元気な子
- (創立・明治8年 きまりの制定・大正8年 教室に)

資料8

北海道・G小学校

〈生活面〉

朝は7時ごろまでに起き、夜は10時までに寝る

〈安全面〉

1. 危いところで遊ばない
(道路、線路、木材置場)
2. 花火はおとなの人といっしょに
ボートもおとなの人といっしょに

〈健康面〉

歯みがき、手洗いをきちんとする
(創立・明治34年 きまりの制定・昭和25年)

資料2は本文P.17に掲げてある